

デーヴォ ガイド



2023.10.23-29

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

L T G Guide

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship

4:7 しかし、私たちは一人ひとり、キリストの賜物の量りにしたがって恵みを与えられました。

4:8 そのため、こう言われています。「彼はいと高き所に上ったとき、捕虜を連れて行き、人々に贈り物を与えられた。」

4:9 「上った」ということは、彼が低い所、つまり地上に降られたということではなくて何でしょうか。

4:10 この降られた方ご自身は、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも高く上られた方でもあります。

4:11 こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。

4:12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。

4:13 私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。

4:14 こうして、私たちはもはや子どもではなく、人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがなく、

4:15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長するのです。

4:16 キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つながり合わされ、それぞれの部分はその分に応じて

働くことにより成長して、愛のうちに建てられることになります。

一致とは単なる全体主義ではありません。主は私たちにそれぞれ違った賜物を与えてくださったのですから、その違いは大切にしなければなりません。全体主義は主の御心に反することになります。

教会はすばらしいもので、尊重して仕えるべきですが、それは牧師など人に服従するものではありません。牧師のようなリーダーに気に入られるように、全員が同じものになるではありません。

牧師もキリストの体である教会を建て上げるための一人に過ぎません。また教師も同じです。牧師や教師のようなリーダーは自分に従わせるのではなく、みんなを整えて奉仕へと向かわせるのが、その役割です。整えるということには動機も重要です。イエスを愛する思い、自分から進んでやりたいと思う恵など、聖徒たちが幸いと感じるように、主の愛をたくさんいただくのです。

ですから愛のうちに建てられるのです。従う場合もリードする場合も、主の愛のうちに一致を喜びつつ、成長しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



24日 火曜

エペソ



4:17 ですから私は言います。主にあって厳かに勧めます。あなたがたはもはや、異邦人がむなしい心で歩んでいるように歩んではなりません。

4:18 彼らは知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、頑なな心のゆえに、神のいのちから遠く離れています。

4:19 無感覚になった彼らは、好色に身を任せて、あらゆる不潔な行いを貪るようになっていきます。

4:20 しかしあなたがたは、キリストをそのように学んだではありません。

4:21 ただし、本当にあなたがたがキリストについて聞き、キリストにあって教えられているとすれば、です。真理はイエスにあるのですから。

4:22 その教えとは、あなたがたの以前の生活について言えば、人を欺く情欲によって腐敗していく古い人を、あなたがたが脱ぎ捨てること、

4:23 また、あなたがたが霊と心において新しくされ続け、

4:24 真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。

教会に一致があつてこそ、その基盤の中で、私たちはより良い生き方へのチャレンジが始まります。異邦人すなわち、神を無視する人々と同じ生き方をしないようにしましょう。根本的に違うのだからです。私たちは永遠が尺度です。主からの報いに期待しています。人に望みを置きませんが、どんな人をも愛そうと心からこれに努めています。

ですから「新しい人」身に着ましょう。救われる前の古い自分と決別しましょう。または神様に従

えていなかった以前の自分と決別しましょう。さらには、この世の人々には新鮮な新しい生き方を示しましょう。神を信じない生き方に流されていないか、吟味してみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



25日 水曜

エペソ

4:25 ですから、あなたがたは偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。私たちは互いに、からだの一部分なのです。

4:26 怒っても、罪を犯してはなりません。憤ったままで日が暮れるようであってはけません。

4:27 悪魔に機会を与えないようにしなさい。
4:28 盗みをしている者は、もう盗んではいけません。むしろ、困っている人に分け与えるため、自分の手で正しい仕事をし、労苦して働きなさい。

4:29 悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。むしろ、必要なときに、人の成長に役立つことばを語り、聞く人に恵みを与えなさい。

4:30 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。

4:31 無慈悲、憤り、怒り、怒号、ののしりなどを、一切の悪意とともに、すべて捨て去りなさい。

4:32 互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。

私たちクリスチャンは、みな教会に属していますので、キリストを頭とする体の器官です。それで、私たちは自分のために存在して生きているのではなく、互いのために存在し生きているのです。まさに「私たちはからだの一部分として互いにそれぞれのもの」だということです。

教会に集う兄弟姉妹のために自分は生きているのだということを、しっかりと自覚して考え行動しましょう。またこれからからだに属する人々、すなわ



ち救われるべき人々のためにも、自分は何ができるか何をすべきか、考えましょう。

怒りにも正しい動機から来るものがありますし、心の反応として避けられないものもあるでしょう。しかしいつまでも怒りを納めないでいると、それは悪魔に用いられてしまいます。ユダヤでは日没までが一日を考えられていましたから、翌日には怒りを忘れなさいという意味です。

現代では盗みの方法も多様化していますが、本来自分に権利がないのに自分のために使ってしまったり、それは盗みということになるでしょう。また借りたものを返さないのも、結果的に盗みと同じこととなります。「もう盗んではいけません」という言葉に、未来志向的な赦しを感じられます。自分で気づいたなら、すぐに改めなければいけません。

また「施しを」して与えることを考えるなら、自分のための盗みはなくなるでしょう。生きる動機を変える必要があります。

ことばは特に大切です。ことばは人を「死にたい」という思いにもしますし、「生きよう」という励ましをも与えます。

すべては「神の聖霊」を悲しませるのではなく、喜ばせるということに集約されます。聖霊様は「親切」「優しさ」「赦しあう」ことを喜ばれます。まずは教会の中で率先して、自分自身がそのような者をなりましょう。そして神様に従わない人々にも聖霊様の愛で接しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26日 木曜

エペソ



5:1 ですから、愛されている子どもらしく、神に倣う者となりなさい。

5:2 また、愛のうちに歩みなさい。キリストも私たちを愛して、私たちのために、ご自分を神へのささげ物、またいけにえとし、芳ばしい香りを献げてくださいました。

5:3 あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、淫らな行いも、どんな汚れも、また貪りも、口にすることさえてはいけません。

5:4 また、わいせつなことや、愚かなおしゃべり、下品な冗談もそうです。これらは、ふさわしくありません。むしろ、口にすべきは感謝のことばです。

5:5 このことをよく知っておきなさい。淫らな者、汚れた者、貪る者は偶像礼拝者であって、こういう者はだれも、キリストと神との御国を受け継ぐことができません。

5:6 だれにも空しいことばでだまされてはいけません。こういう行いのゆえに、神の怒りは不従順の子らに下るのです。

5:7 ですから、彼らの仲間になってはいけません。

5:8 あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあって光となりました。光の子どもとして歩みなさい。

5:9 あらゆる善意と正義と真実のうちに、光は実を結ぶのです。

5:10 何が主に喜ばれることなのかを吟味なさい。

5:11 実を結ばない暗闇のわざに加わらず、むしろ、それを明るみに出さなさい。

5:12 彼らがひそかに行っていることは、口にすることも恥ずかしいことなのです。

5:13 しかし、すべてのものは光によって明るみに引き出され、明らかにされます。

5:14 明らかにされるものはみな光だからです。それで、こう言われています。「眠っている人よ、起きよ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストがあなたを照らされる。」

「愛のうちに歩む」という良い行いの動機は、神様に「愛されている」という自己像から始まります。愛されている人は誰でも、これからも愛される自分でありたいと願うものです。主からの愛にいつも気づいて、愛されている自分の価値を発見し続けていきましょう。

下品な話が雰囲気や和ませるとか、ストレス解消になると考える人もいますが、そうではありません。(テレビのお笑い芸人でも、下品なネタでなくても大いに笑わせている人々がいますし。) ユーモアがあって、和ませて、楽しい人でありつつ、「感謝」と信仰を表し、「光の子どもらしく」歩むことはできます。

下品なことばによって、次第に不従順な者たちの仲間にならないうようにしましょう。いつも主の光の中を歩みましょう。そのような生き方の、すばらしさと喜びを味わって生きましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 27日 金曜

エペソ

5:15 ですから、自分がどのように歩んでいるか、あなたがたは細かく注意を払いなさい。知恵のない者としてではなく、知恵のある者として、

5:16 機会を十分に活かさない。悪い時代だからです。

5:17 ですから、愚かにならないで、主のみこころが何であるかを悟りなさい。

5:18 また、ぶどう酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。むしろ、御霊に満たされなさい。

5:19 詩と賛美と霊の歌をもって互いに語り合い、主に向かって心から賛美し、歌いなさい。

5:20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって、父である神に感謝しなさい。

5:21 キリストを恐れて、互いに従い合いなさい。

不従順な人々の仲間にならないためには、「賢い人のように歩む」必要があります。「賢い人のように」とは、賢い人に倣ってということでしょう。これまでの信仰の偉人や、信仰の先輩、尊敬するクリスチャンの生き方から大いに学ぶことです。

「悪い時代」とは、主のみこころに反することが横行しているという意味です。そのような時勢の中では神の国前進のために与えられるチャンスは少ないのですから、それを無駄にしないようにしましょう。ノンクリスチャンの救いのために、兄弟姉妹が互いに主と歩むために、今が結果を左右するチャンスだと感じたなら、自分からそれをしましょう。主は力を与えてくれます。

イエス様は婚礼のときに水をぶどう酒に変えたくらいですから、アルコールが罪というわけではないでしょうが、「酒に酔ってはいけません」とありま



す。自制が必要です。それよりも良いのは聖霊に満たされることです。いちばんのリラックスであり、ストレス解消であり、楽しい交わりであり、そして心の癒しなのです。それを互いに体験していきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28日 土曜

エペソ



5:22 妻たちよ。主に従うように、自分の夫に従いなさい。

5:23 キリストが教会のかしらであり、ご自分がそのからだの救い主であるように、夫は妻のかしらなのです。

5:24 教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。

5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。

5:26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

5:27 ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

5:28 同様に夫たちも、自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。

5:29 いまだかつて自分の身を憎んだ人はいません。むしろ、それを養い育てます。キリストも教会に対してそのようになさるのです。

5:30 私たちはキリストのからだの部分だからです。

5:31 「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」

5:32 この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです。

5:33 それはそれとして、あなたがたもそれぞれ、自分の妻を自分と同じように愛しなさい。妻もまた、自分の夫を敬いなさい。

教会についても言及しています。両者は共通点があるからです。この世の始まりよりも前に、神は主イエスと救われた教会の永遠の合一をお定めになりました。そしてその愛の恵を表すことができるように、地上で夫婦の関係をお定めになったのです。

ですから妻は、教会がイエス様を愛して従うように、夫を愛して従うものなのです。それが祝福の道です。それは、すばらしい夫であるという理由からではなく、イエス様に従うから…というものです。

夫は当然、イエス様が教会を愛したように妻を愛するべきもので、それは自分の命と引き換えにして相手を愛するものです。そんなことは理想論だとして片付けることは簡単です。しかし、自分を愛するのなら、自分のためにも妻を愛することです。それを知っているかどうか、またそうしたいと願っているかが、夫婦の関係を大きく変えるのです。

また教会も、そのようにイエスを愛するものです。教会の奥義を理解しないなら、夫婦のあり方も人間的な感情に左右されてしまい、うまくいかないでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



- 6:1 子どもたちよ。主にあって自分の両親に従いなさい。これは正しいことなのです。
- 6:2 「あなたの父と母を敬え。」これは約束を伴う第一の戒めです。
- 6:3 「そうすれば、あなたは幸せになり、その土地であなただけの日は長く続く」という約束です。
- 6:4 父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。むしろ、主の教育と訓戒によって育てなさい。
- 6:5 奴隷たちよ。キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい。
- 6:6 ご機嫌取りのような、うわべだけの仕方ではなく、キリストのしもべとして心から神のみこころを行い、
- 6:7 人にではなく主に仕えるように、喜んで仕えなさい。
- 6:8 奴隷であっても自由人であっても、良いことを行えば、それぞれ主からその報いを受けることを、あなたがたは知っています。
- 6:9 主人たちよ。あなたがたも奴隷に対して同じようにしなさい。脅すことはやめなさい。あなたがたは、彼らの主、またあなたがたの主が天におられ、主は人を差別さなれないことを知っているのです。

父と母を敬うことは地上での幸せにつながるということです。尊敬できないと思えるような場合もあるかも知れませんが、それでも少しでも敬うことはできないだろうか…と信仰のチャレンジをすることも必要でしょう。

父親には「子どもをおこらせてはいけません」と、命令されています。親からすれば、自分が正しいと

の思いは強いでしょう。しかし、子どもがそれを受け止められないなら、いくら言っても無駄なのです。かえって心を閉ざすことになります。そのような心に関しては、子どもを育てた親に責任があります。親が悪いというのではなく、子どもの心が親に対して開かれるためには、親が何とかしなければならぬ責任を負っているということです。そのためには、子どもを怒らせたままでは、改善の可能性がなくなってしまうのです。

親が何を言っても聞かないとしても、信仰を育てることによって、主のみこころを行う人へと成長させるなら、希望があります。それは親だけではなく、教会の共同体によって可能性が生まれるでしょう。

奴隷と主人とは、全く立場の違う関係です。現代では雇用主と従業員のような関係でしょうか。立場が明確に上下の関係です。このパウロのことはから学び、仕事をするに当たっては主に仕える思いを持ちましょう。それをモットーとしましょう。また主のみこころを行って、差別のない愛のある上司となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

